

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑬

集団のシンボルや目印となつくりで、幅は1尺余りして、旗は最も代表的なものである。本資料は、宇和郡布喜川村嶋山(しぎやま)組(西予市三瓶町)の組頭菊池家に伝来した旗であ

嶋山菊池家伝来の流旗

地域集団信仰心の表れ

る。南北朝時代の「重山文」と同じ巻子に収められ、それらを含む家伝文書と合わせ、県有形文化財に指定されている。麻の生地に墨書した簡素



流旗(嶋山菊池家伝来、県指定有形文化財)、戦国時代か?＝個人蔵、県歴史文化博物館保管

上部には、中央に「伊勢天照大神宮」、向かって右端1行は胎藏界大日如来の真言である。神仏習合の時代ならではともいえず。次いで、旗の中央、引向線の上には大きく「三」を据える。三島大明神を指すと考えられ、伊予一宮への崇敬をつかがわせる。一方下部には植物をモチーフにした三つ巴(ごもえ)紋を描く。菊池家の家紋として受け継がれ、植物は藤と伝わる。当館では、以前に紹介した久保家伝来の流旗も含め、南予伝来の類似の旗3点を収蔵している。神名や文様は違うものの、いずれも麻地に墨書で、構図も伊予国の信仰的アイデンティティーともいえる「三」を中央に据えつつ、個別の信仰対象を上部に列記して社会的アイデンティティーとなる所属集団の文様を描くという共通性を見せる。

地域の素朴な旗の中にも、使用した人々の精神世界が少なからず映し出されているのである。

(専門学芸員・山内治明)

〈随時掲載します〉